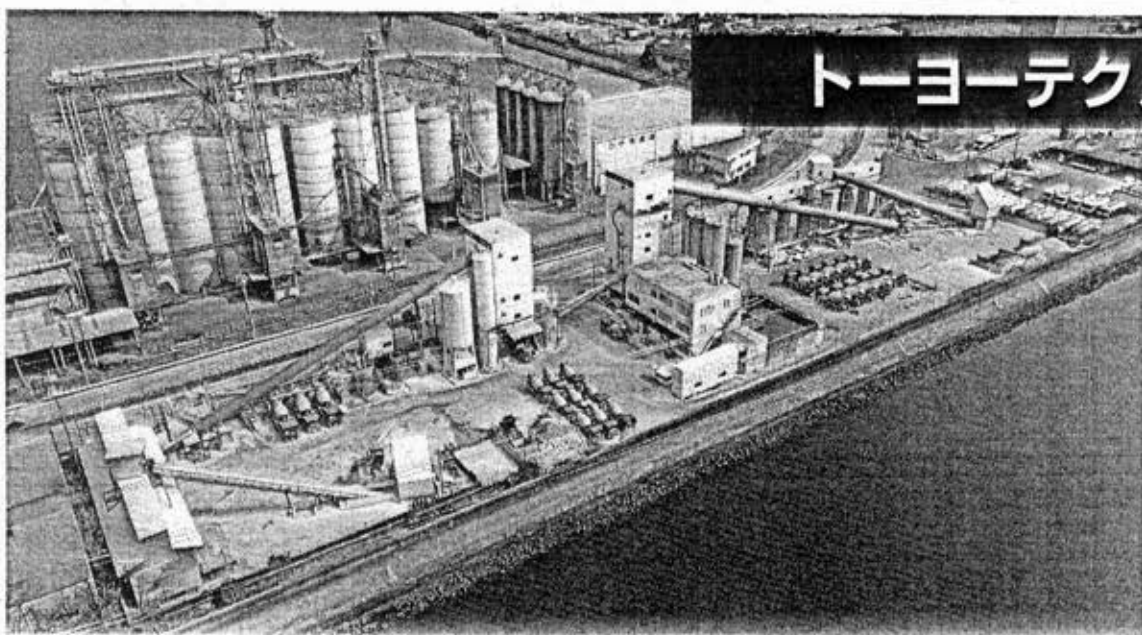


トーヨーテクノ

特殊品の製造体制強化



右が18年に設置したAプラント、左がBプラント

4種の粉体同時計量可能

由良海運グループの生コン会社トーヨーテクノ(愛知県名古屋市長、大江康夫社長)は昨年12月、Bプラントのミキサー更新などのSBを実施し、高付加価値の特殊品の製造体制を強化した。同社は2018年に2プラント体制に移行。新たに設置したAプラントで汎用品、工場設立以来のBプラントで特殊品を中心に取り扱い出荷量は増加傾向にある。「2プラント体制によるミキサーの練り混ぜ能力に加え、4種の粉体を同時計量可能な充実した設備や資格保有者10人以上の人材により、技術力で選ばれる工場を目指している」(大江社長)

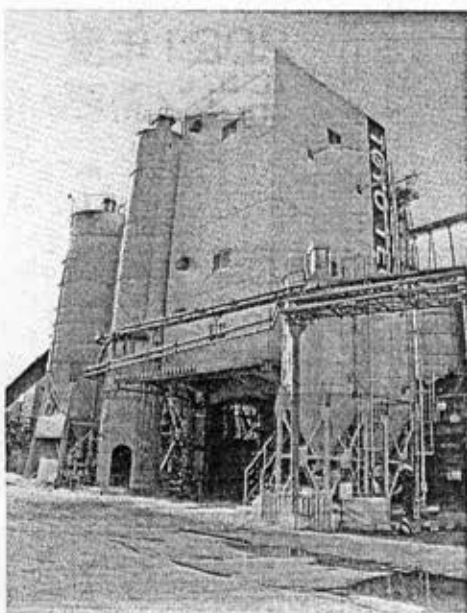
同社は総合物流企業由良海運の子会社として1988年に設立。現在名古屋生コンクリート協同組合および知多生コンクリート協同組合に所属し、21年度出荷実績は16万1千m³(前年度比1万m³増)。名古屋中心部は市街地再開発が進んでおり、数年後にはリニア中央新幹線名古屋新駅工事を図っていく。



大江康夫社長

製造する生コンは多種にわたり、フライアッシュ(F-A)および高炉スラグ細骨材の副産物を使用し、地球環境を考えた高耐久を極めた「グリーンクリート」(F-Aコン

約30年ぶりにBプラントのミキサーを更新



クリート)を中心に、高強度コンクリートは最大80N/mm²の大引認定を単独取得し、膨張コンクリートのJIS認証も取得する。特殊品は名古屋港岸壁補強工事向けの超高強度繊維補強コンクリートをBプラントから出荷しており、22年から25年まで向こう3年間の継続的な出荷を計画。昨年10月12日に補強工事が中断した際、供給の安定化を図るべくBプラントをS

Bした。「この超高強度繊維補強コンクリートは1バッチの練り混ぜに900秒要し月平均10日ほど出荷があるため、2プラント体制でないと対応は難しい。Bプラントは

約30年間SBを行って高炉セメントB種、F-A、膨張材を両プラントで共用可能にした。貯蔵能力は、Aプラントが粉体サイロ4基(合計容量600t)、混和剤タンク10基、Bプラントが粉体サイロ6基(合計容量672t)、混和剤タンク8

量操作盤をハイグレードに連結させる改造を行い高炉セメントB種、F-A、膨張材を両プラントで共用可能にした。貯蔵能力は、Aプラントが粉体サイロ4基(合計容量600t)、混和剤タンク10基、Bプラントが粉体サイロ6基(合計容量672t)、混和剤タンク8

計量操作盤「LIRB Aα(リブラアルファ)」の最新機種にそれぞれ更新した。材料貯蔵設備に大きな変更はないが粉体サイロをA、B両プラントに連続させる改造を行い高炉セメントB種、F-A、膨張材を両プラントで共用可能にした。貯蔵能力は、Aプラントが粉体サイロ4基(合計容量600t)、混和剤タンク10基、Bプラントが粉体サイロ6基(合計容量672t)、混和剤タンク8

「LIRB Aα(リブラアルファ)」の最新機種にそれぞれ更新した。材料貯蔵設備に大きな変更はないが粉体サイロをA、B両プラントに連続させる改造を行い高炉セメントB種、F-A、膨張材を両プラントで共用可能にした。貯蔵能力は、Aプラントが粉体サイロ4基(合計容量600t)、混和剤タンク10基、Bプラントが粉体サイロ6基(合計容量672t)、混和剤タンク8

「LIRB Aα(リブラアルファ)」の最新機種にそれぞれ更新した。材料貯蔵設備に大きな変更はないが粉体サイロをA、B両プラントに連続させる改造を行い高炉セメントB種、F-A、膨張材を両プラントで共用可能にした。貯蔵能力は、Aプラントが粉体サイロ4基(合計容量600t)、混和剤タンク10基、Bプラントが粉体サイロ6基(合計容量672t)、混和剤タンク8